

# 生活に密着した運動を 全国生活福祉運動部長会議

第72期第1回全国生活福祉運動部長会議が9月16日、大阪HRCビルでひらかれ、平見良太・生活福祉運動部長と事務局が参加した。

はじめに、山崎鈴子・中央生活福祉運動部長から「国会は緊迫した状況だが、戦争への道は絶対許してはならない。今年は「同対審」答申50年。成果と課題を集約し、差別撤廃に向けてどうとりくんでいくのか。10月の厚生労働省交渉に向けて、活発な議論をお願いしたい」とあいさつがあり、第72期の運動方針と中央生活福祉運動部長が確認された。

つづいて、第22回中央福祉学校の総括や意見交換をおこなった。「3つのテーマで学習をおこなったが、各地の実践報告があってもよかったのでは」「県内各ブロックを毎年まわるが、人口減少や流出など運動の

## 隣保館との連携を 厚生労働省交渉

厚生労働省交渉を10月6日、東京・同省内でひらかれ、県連から平見部長と事務局が参加した。

山崎部長のあいさつのもと、金井正人・厚生労働省社会・援護局地域福祉課課長から「同対審」答申50年ということ、大変意義のある年。生活困窮者自立支援法について、人権と福祉のまちづくりという観点から、隣保館など地域の社会資源と連携し、行政と地域などが密接した関係を築き上げることが重要」とあいさつがあった。

省として「差別は依然として存在し、残された課題解決に向けとりくんでいく」と同和行政の必要性について回答した。生

定している(京都)ことが報告された。協議事項として、第23回中央福祉学校の日程が2016年12月3、4日に

決定し、今日の議論をふまえて学習内容を実践報告と先進事例等について意見交換できるものと、厚生労働省から講師をまねき福祉に関す

## 厚労省交渉

活困窮者自立支援法」の対応について、各自治体での庁内体制構築について、人権担当課との連携および隣保館の活用について、厚生労働省は「支援の効果を最大限にするためには、横断的連携が重要。包括的支援を官民が連携してとりくまなければならない。全国自治体関係者が集まる会議でも、地域における多様な社会資源としてより積極的な隣保館運営ができるよう、お願いをしている」と回答した。また「生活保護法」「介護保険法」「母子および寡婦福祉法」の改定について、部落を素通りしない、利用できる、受給できないことがないよう要求した。「子どもの貧困対策に対する大綱」について策定状況を尋ねると、取りまとめが内閣府のため把握できていないと回答。京都府連から地域の貧困の連鎖を断ち切るため、隣保館でひとり親家庭への支援事業をおこなっており、概算要求をしておこなっており、概算要求を把握していないのは論外だと強く指摘。課長から「子どもの貧困対策は省として

## ともて学ぶ識字運動を 識字経験交流会

部解放第16回全国識字経験交流会を10月18日・19日、滋賀県彦根市にある彦根勤労福祉会館でひらかれ、県連から坂下君代・教育文化副部長、福島隆志・同副部長と事務局が参加した。

坂本三郎・中央執行副委員長は「非識字者は、右手に包帯をまいて職員にかいてもらったりしていた。非識字の脱却をすすめて、解放に向けた運動をとにもがんばっていききたい。交流をふくめ、2日間とりくんでほしい」とあいさつした。

全体会終了後「識字学校の課題について」や識字生たちで「思い」を語り合う、「文章・詩の教室」など6分科会にわかれ、意見を交えた。

翌日、滋賀県和田識字教室の識字生から「知ってほしい」とあいさつした。山崎部長

重要なテーマでの講演、運動の今日的課題などについて議論できる場にしたと提案された。最後に、10

月6日の厚生労働省交渉の要求項目について、文言の訂正や今日の議論、提起をふまえた要求項目へと修正し、

## 今後の日程

- (11月)
- 3 沖浦和光先生をしのぶ会 (大阪市)
- 5 「同対審」答申50年要請行動 (和歌山市)
- 5~6 第26回高齢者交流集会および高連協第25回総会 (湯浅城)
- 6~7 全国農林漁業運動部長会議および現地視察(福岡)
- 9 対和歌山県交渉(和歌山県民文化会館)
- 10~12 第49回全国研究集会 (大分市)
- 13 第17回憲法の破壊を許さないランチ TIME デモ(和歌山市~京橋)
- 14 ふれあい人権フェスタ (ビッグホール)
- 20 同企連現地研修 (タチソ)
- 20 企業・産業振興運動部近畿ブロック会議 (大阪)
- 28 国連審査とマイノリティ女性2015シンポジウム (大阪)
- 29 青年部・女性部主催水平社宣言学習会 (同和企業センター)



あいさつする山崎部長



分科会に参加する坂下副部長

来年度の要求の柱としている。貧困の連鎖を断ち切ることが重要だとは十分認識

しており、予算確保に努めたい」と回答した。

当日各地の実情をしつかりと訴えていくことを確認し、会議を終えた。

女性運動部長から、文字を奪われ識字生として文字を取り戻し社会参画するなかで、部落民としての自覚をすることが原点であり、地元を誇りをもつことは素晴らしいことだと思ふ。解放運動は識字運動だとあらためて思った。今は若年層の非識字者が増え、各年齢層がともに識字教室で学びあい、再来年も情報・意見交換のできる識字交流会ができるように頑張りましょう。と集会の報告とまとめがされた。

## 支局からのお知らせ



お気軽にお電話を!

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していきたいと思ふ。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただければ、取材に走ります。もちろん、投稿記事も大歓迎! 写真を添えて支局までお送り下さい。(発送先)〒640-8314 和歌山市神前405-3 部落解放同盟連合会内 解放新聞和歌山支局宛